青森県総合学校教育センター　長期研究講座報告　[2016.3]
Ｆ９－０１

小学校　学級経営

少人数学級における自治的能力を育てるための指導
－クラス会議の実践を通して－

今別町立今別小学校　　教諭　　舘　山　　美佐子

要　　旨

本研究は，人間関係が固定化している少人数学級の小学校高学年児童に対して，クラス会議の手法を取り入れた話合い活動を実践することにより，自治的能力に高まりが見られるかを検証した。その結果，五つの自治的能力のうち，互いの違いを乗り越え，折り合いをつけて意思決定する力，問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力，自分たちの生活の向上のために課題を見つけ出す力が高まりつつあることが明らかになった。さらに，継続的なクラス会議の実施は，固定化した人間関係を変容させることが示唆された。

キーワード：小学校　少人数　自治的能力　クラス会議　人間関係

Ⅰ　主題設定の理由

近年，不登校，いじめ，学級崩壊，学力低下等，教育にまつわる課題は山積している。子どもたちを取り巻く環境は，少子高齢化，地域社会における人間関係の希薄化が進行し，社会性を身に付ける機会が不足している。社会性の未熟さが，望ましい人間関係の構築を困難にし，いじめや不登校，学級崩壊などの教育課題につながっていると言えよう。子どもたちのより良い成長のために，学校が社会性を身に付ける場を意図的に設定する必要がある。

特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」では，「特別活動は，児童の自治的な能力や自主的な態度を育て，学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き，いじめや不登校などの問題に対する予防薬的な役割を果たすなど，児童の成長に欠かせない教育活動」と述べられている（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター，2015）。

特別活動を充実させることが社会性の発達を促し，先述した教育課題を解決する糸口になるのではないかと考えられる。子どもたちが学校生活の中で最も長い時間所属するのは，学級という集団である。その子どもたちは，社会性の発達にばらつきがあり，自治的な能力にも個人差がある。そのため，人間関係の軋轢から学級内には様々な問題が生じるが，その解決に苦慮することが多い。だからこそ，学級活動の充実によって，学級集団の成長を促すことが欠かせない。

本学級は，男子４名，女子３名の計７名という５学年の少人数学級である。クラス替えがなく固定化された狭い人間関係の中で生活している。男女ともに仲が良いものの，馴れ合いになることが多く，向上心に欠ける。学級で話合い活動を行うと，発言力の強い児童の意見に流され，自己主張を避ける児童がいる。生活上の個人の問題や学級の問題は，教師が解決してくれるものと思い込み，学級を更によくしていこうという意識が薄い。個人としても学級としても自治的能力があまり育っていない状況にある。

河村（2010）によれば，教師が望ましい学級集団の形成を志向していくとき，五つの学級集団発達過程が出現し，最終段階が自治的集団成立期であり，この時期には，「学級のルールが子どもたちに内在化され，一定の規則正しい全体生活や行動が，温和な雰囲気の中で展開される。さらに課題に合わせてリーダーになる子どもが選ばれ，すべての子どもがリーダーシップをとりうるようになる。学級の問題は自分たちで解決できる状態である。子どもたちは自他の成長のために協力できる状態である。」とされている。

堀内（2014）や津田（2015）は，アドラー心理学の理論に基づいた「クラス会議」の実施は，自治的な学級集団を育成する上で有効であることを示しているが，１０名にも満たない少人数学級でのクラス会議の有効性は報告されていない。

そこで本研究では，少人数学級においても，クラス会議を継続的に実施することが，自治的能力を育てることに有効な手立てとなり得るだろうと考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究目標

人間関係が固定化している少人数学級の小学校高学年児童が，より良い生活を送ることができるようになるために，クラス会議の手法を取り入れた話合い活動を実践することにより，自治的能力が高まることを明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

人間関係が固定化している少人数学級の小学校高学年児童が，より良い生活を送ることができるようになるために，学級活動の時間においてクラス会議の手法を取り入れた話合い活動を継続的に実践することで，自治的能力が高まるであろう。

Ⅳ　研究の実際とその考察

１　研究における基本的な考え方

(1) クラス会議について

クラス会議とは，「子どもたちが自分たちでクラスの課題を話し合い，解決策を考える会議」（赤坂，2014a）であり，温かく受容的な雰囲気の中で行われ，「わかり合い，協力し，双方が納得する答えを見つけ出す民主的なもの」（赤坂，2014b）である。議題は，生活上のトラブルや課題，楽しいイベントの計画などが子どもたちから提案される。さらに，個人的な悩みや相談ごとも，議題として提案される場合がある。

学級会とクラス会議の違いは，個人の課題についても話し合うこと，トーキングスティックを用いるため全員に発言する機会が与えられること，温かい雰囲気づくりをするため，輪になったりコンプリメントの交換をしたりすることなどが挙げられる。

(2) クラス会議の１時間の活動内容

赤坂（2014b）の方法を参考にクラス会議の１時間の活動内容を以下のように設定した。

過程	活動内容
①　輪になる	○机を横に移動させ，椅子で円を作る。
②　あいさつをする	○司会者が行う。
③　話合いのルールの斉唱	○全員でルールを読み上げる。 （優しく言う，議題に沿って話す，敬意を払う）
④　コンプリメントの交換	○友達への感謝の言葉や善行などを一人ずつ簡単に発表する。
⑤　前回の解決策の振り返り	○前回の決定事項について，１週間の実践の結果を報告する。実践結果を踏まえ，再度話し合うかどうか全員で確認する。
⑥　議題の提案	○提案者が議題を読み上げる。
⑦　解決策の話合い	○トーキングスティックを回し，一人ずつ解決策を出し合う。 ・考えがまとまらない場合は「パスします。」と発言する。 ・賛成や心配な点を明らかにしていく。 ・必要に応じて，席替えや相談タイムを取り入れる。
⑧　解決策の決定	○学級全体に関わる議題は，多数決で解決策を決定する。その際，少数意見にも配慮する。個人の課題や悩みの場合は，議題提案者が最善策を選択する。
⑨　クラス会議の振り返り	○友達のよさや頑張りを称賛し合う。
⑩　あいさつをする	○司会者が行う。
※議題は，クラス会議の２，３日前に知らせる。当日までに司会者と簡単な打合せを行う。 ※議題の内容によっては１時間に二つの議題を扱うこともある。一つ目の議題が終わったら⑥へ戻る。	

本学級は，７名という少人数学級であるため，司会者と書記をそれぞれ１名ずつにし，板書をデジタルカメラで撮影したものをクラス会議の記録として蓄積する。司会者と書記は，輪番制で行い，全員が役割を経験できるようにする。

⑶ 自治的能力とクラス会議で培われる力

自治的能力とは，「よりよい学校生活づくりに向けて，仲間と共によさは生かし，課題は解決しようと集団の一員として自分の責任を果たし，自分の意思を集団に反映させ，自主的・実践的に行動し，成長を実感して次に生かす力」（飯尾，2013）である。

赤坂（2014a）は，クラス会議の実践を通して身に付く力として，以下の五つを挙げている。

1　互いの違いを乗り越え、折り合いをつけて意思決定する力。
2　協力して問題解決をする力。
3　問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力。
4　行動した結果をふり返り修正する力。
5　自分たちの生活の向上のために課題を見つけ出す力。

クラス会議で培われる上記の五つの力を自治的能力として捉える。

２　検証尺度について

⑴ 学校環境適応感尺度「アセス」

学校環境適応感尺度「アセス」は，栗原ら（2010）によって，児童生徒の学校環境への適応感の実態把握とその変化を捉えるために開発された尺度である。この尺度は，「生活満足感」「教師サポート」「友人サポート」「向社会的スキル」「非侵害的関係」「学習的適応」の６因子（表１）３４項目から構成され，「あてはまる」から「あてはまらない」までの５件法で回答を求めるものである。

表１　学校環境適応感尺度「アセス」の６因子

生活満足感	生活全体に対して満足や楽しさを感じている程度で，総合的な適応感を示す
教師サポート	担任（教師）の支援があるとか，認められているなど，担任（教師）との関係が良好であると感じている程度を示す
友人サポート	友だちからの支援があるとか，認められているなど，友人関係が良好であると感じている程度を示す
向社会的スキル	友だちへの援助や友だちとの関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示す
非侵害的関係	無視やいじわるなど，拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度を示す
学習的適応	学習の方法も分かり，意欲も高いなど，学習が良好だと感じている程度を示す

自治的能力は，集団の中で仲間と共に問題解決を経験することによって培われていくものである。したがって，児童の変容を検討するため，学校環境適応感尺度「アセス」を事前と事後に実施し，「友人サポート」と「向社会的スキル」の二つの因子について見ていく。

⑵ 半構造化面接

クラス会議の実施が児童にどのような影響を与えるのかを検証するために，個別に半構造化面接を実施する。予め用意した質問（表２）は，自治的能力として捉えた五つの力に基づいて作成した。また，クラス会議に対する児童の感想を聞くために，四つの質問（表３）を準備した。

表２　半構造化面接で用いた質問項目

自治的能力	質問項目
1　互いの違いを乗り越え，折り合いをつけて意思決定する力	項目１　友達と意見が食い違った時，どうしますか。
2　協力して問題解決をする力	項目２　困ったことや悩みがあったらどうしますか。
3　問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力	項目３　困ったり悩んだりしている友達がいたら，どうしますか。
4　行動した結果を振り返り修正する力	項目４　生活の中で，行動や活動，仕事をした後に，どうしますか。
5　自分たちの生活の向上のために課題を見つけ出す力	項目５　自分たちの生活をより良くするためには，どうすれば良いと思いますか。

表３　クラス会議の感想を聞くための質問項目

項目６	クラス会議をやってみて，良かったと感じた点を話してください。
項目７	クラス会議をやってみて，嫌だった・辛かったと思うところを話してください。
項目８	クラス会議は，あなたのためになりましたか。
項目９	クラス会議で，どんな力がついたと思いますか。

３　クラス会議の実際

(1)　２学期以降の学級活動の指導計画

クラス会議は，２学期から実施する。検証期間は，平成２７年９月２日から１１月２日の２か月間であるが，検証期間終了後も年度末まで実施していく。２学期以降の学級活動の指導計画を表４に示す。

表４　２学期以降の学級活動の指導計画

月	週	学級活動の内容
８月	4	★ア　２学期のめあてを決めよう　☆イ･ウ　係を決めよう
９月	1	☆ア　クラス会議１
	2	☆ア　クラス会議２
	3	☆ア　クラス会議３
	4	☆ア　クラス会議４
１０月	1	☆ア　クラス会議５
	2	☆イ　係活動を見直そう
	3	★オ　いろいろな本を読もう
	4	☆ア　クラス会議６
１１月	1	☆ア　クラス会議７
	2	★キ　おやつのとり方
	3	☆ア　クラス会議８
	4	☆ア　クラス会議９
１２月	1	☆ア　冬休みの過ごし方　☆ア クラス会議１０
	2	★ア　２学期を振り返ろう　☆ア クラス会議１１
	3	☆ウ　お楽しみ会をしよう
１月	1	★ア　３学期のめあてを決めよう　☆イ・ウ　係を決めよう
	2	☆ア　クラス会議１２
２月	1	☆ア　クラス会議１３
	2	★カ　寒さなんかに負けません
	3	☆イ　係活動を見直そう　☆ア クラス会議１４
	4	☆ア　お楽しみ会の計画を立てよう
３月	1	☆ア　クラス会議１５
	2	★ア　もうすぐ６年生
	3	☆ウ　お楽しみ会をしよう

☆→内容（１）学級や学校の生活づくり
★→内容（２）日常の生活や学習への適応及び健康安全
※片仮名表記は，現行の小学校学習指導要領第６章特別活動に示されている共通事項の記号である。

(2)　クラス会議の概要

検証期間中に実施したクラス会議の各回で出された議題と児童から出された解決策及び決定事項を以下に示す。

クラス会議１（９月２日）検証授業①

議題	早起きができない(個人の悩み)
出された解決策	夜にテレビを見ない。早く寝て起こしてもらう。夢だと思ったら起きる。 決まった時間に起きる。朝ご飯を早く食べる。早く準備する。前日の夜の番組は録画する。怖いことを考えて早く寝る。夜ご飯を早く食べて，早く寝る。怖いものを見る。お母さんに早く起きてもらって，起こしてもらう。
決定事項	夢だと思ったら起きる。お母さんに早く起きてもらって，起こしてもらう。
議題	朝，ご飯が食べられない(個人の悩み)
出された解決策	夜に食べ過ぎない。パンと水にする。朝食のメニューを変える。寝る前に何も食べない。バナナを食べる。乾物を食べない。ヨーグルトを食べる。スープを飲む。スムージーを飲む。
決定事項	朝食のメニューを変える。スープを飲む。

クラス会議２（９月３日）　※指導計画にはなかったが，臨時に実施

議題	全校遠足の自由遊びの内容
出された解決策	動物を見る。逃走中。遊具遊び。鬼ごっこ。各自の自由。
決定事項	前半は逃走中，後半は自由遊び。ただし，２人以上で遊ぶこと。

クラス会議３（９月１０日）

議題	ストレスを発散する方法(個人の悩み)
出された解決策	気持ちが和らぐことをする。自分の好きなことをする。誰にも邪魔されない空間をつくる。親に話す。ぬいぐるみなどに八つ当たりする。音楽を聴く。笑えることをする。
決定事項	音楽を聴く。笑えることをする。

クラス会議４（９月２４日）

議題	トーキングスティックの名前を決めよう
出された解決策	ココアン，ココア，モコ，ビッグヘッド，クロちゃん，ワンダーワン，キャラメル クロモコ，モコアン，ワンダーヘッド，メルワン，ビッグちゃん，ビッグモコ，ワンダーちゃん，ワンダービッグ
決定事項	ワンダーちゃん

クラス会議５（９月２９日）検証授業②

議題	ペットを飼いたい
出された解決策	ぬいぐるみ，生き物 心配なこと…土日のえさやり，死んでしまった時，家に持って帰りたくなる →でも，ペットを飼いたい 水槽で飼える生き物，金魚，えさやりは日直
決定事項	金魚，えさやりは日直

クラス会議６（１０月２２日）

議題	元気のよい挨拶をするにはどうしたらいいか
出された解決策	挨拶が暗かったら，声掛けする。スクールバスで通学する人は，まずは運転手さんに元気に挨拶する。近所の人にも挨拶をして登校する。返事が暗かったら，ビー玉を減らす。挨拶チェックシートを作る。ワークシートを作る。 心配なこと…ビー玉を減らす方法は，ビー玉のために挨拶をすることになるのではないか。
決定事項	挨拶チェックシートで一週間取り組んでみる。 ・チェックシートは，学級で一枚。挨拶を○と×で自己評価し，４人以上が○の場合に日直がチェックシートにシールを貼る。

クラス会議７（１１月２日）検証授業③

議題	ご苦労さん会の計画を立てよう
出された解決策	ガラクタバスケット，いす取りゲーム，オセロ，人生ゲーム，トランプ，おやつタイム 心配なこと…人生ゲームは，片付けが大変。時間がかかる。
決定事項	いす取りゲームとトランプ

４　児童の変容

(1) 学校環境適応感尺度「アセス」での事前・事後調査

児童の学校環境適応感の変容を調査するため，クラス会議実施前の2015年８月に事前調査を，７回のクラス会議実施後の2015年１１月に事後調査を実施した。事前と事後を比較すると，すべての因子で平均得点が高くなった（図１）。対人的適応の側面である「教師サポート」は９点，「友人サポート」は４点，「非侵害的関係」は９点の上昇が見られた。

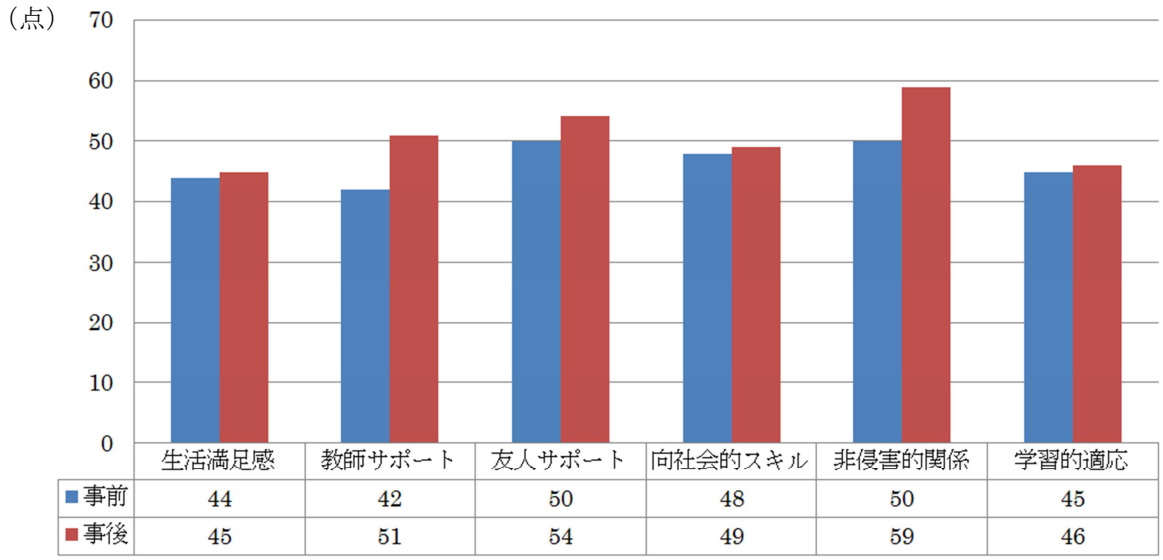

図１　学校環境適応感尺度「アセス」の平均得点（事前・事後で比較）

「友人サポート」と「向社会的スキル」の二つの因子について，児童別に事前と事後の平均得点を比較した（表５）。２因子共に上昇した児童が３名，「友人サポート」が上昇した児童が１名であった。

表５　「友人サポート」，「向社会的スキル」の事前及び事後の得点変化（*N*＝７）

	児童	A	B	C	D	E	F	G
「友人サポート」	事前	55	45	35	37	48	45	83
	事後	61	41	38	48	61	43	83
「向社会的スキル」	事前	55	52	44	44	52	52	38
	事後	52	49	49	55	55	47	38

(2) 半構造化面接

第７回クラス会議の実施後の 2015 年１１月，個別に半構造化面接を行った。面接時間は，１人当たり１０分程度であった。九つの質問項目を準備したが，補助的な質問も取り入れ，児童の反応を引き出すようにした。それぞれの質問項目に対して，クラス会議の効果と考えられる回答を表６から表１４に示す。

ア　互いの違いを乗り越え，折り合いをつけて意思決定する力

「友達と意見が食い違った時，どうしますか。」には，「自分の意見を言ってから，友達の意見を聞くこと。優しく話すこと。理解し合うこと。どちらかが折れること。」などの回答が得られた。具体的な実践場面として，クラス会議や学級会，授業，遊びが挙げられた。

表６　半構造化面接　項目１

友達と意見が食い違った時，どうしますか。
A 女：まず自分の意見を言って，その後に他の人の意見を聞いて，いいなあと思ったところに賛成しています。反対の時は，あまりきつく言わないで，優しい感じで言うようにしています。クラス会議や学級会や授業で使っています。放課後，遊んでいる時にも友達と話し合いで行先や遊びを決めるようになりました。
C 女：理由を聞いて，ちょっと違うと思ったら，自分の意見を言ってどっちか折れる。話合いで食い違った時もそんな感じです。
D 男：まずはそれぞれの意見を出し合って，理解し合います。遊んでいる時とか，クラス会議とか。
E 男：「なぜそれがいいんですか。」と聞きます。「そっちよりはこれの方がいいと思うから，これにしました。」と言います。質問をして，自分の意見も発表して，それで他の人の意見がいいなあと思ったら変わったりしています。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

イ　協力して問題解決をする力

「困ったことや悩みがあったらどうしますか。」には,「みんなに協力してもらう。クラス会議で解決する。」の回答があった。

表７　半構造化面接　項目２

困ったことや悩みがあったらどうしますか。
F 女：自分でも考えるし，みんなにも「これはどうかな。」って言います。
G 男：みんなで考えます。クラス会議にしたらいいと思います。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

ウ　問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力

「困ったり悩んだりしている友達がいたら，どうしますか。」には,「声掛けをする。話を聞く。一緒に考える。励ます。」など，自分にできることを考え支援するような回答が５名から得られた。

表８　半構造化面接　項目３

困ったり悩んだりしている友達がいたら，どうしますか。
A 女：「大丈夫。」と声掛けをするようにしています。朝の会で読むことわざの漢字の読みを E くんに教えています。E くんはいつも「ありがとう。」と言ってくれます。
B 男：「どうしたの？」と声を掛けて，ヒントとか出しながら教えてあげます。
C 女：まず，何をしたのかを聞いてから，進みます。意地悪されたと言ったら，アドバイスをします。
D 男：まず聞きます。「何したの。」って。そして，一緒に考えたりします。
E 男：困っている人がいたら，一応話しかけます。言えないことがあったら仕方ないけど。とにかく嫌なことがあったら，「吐き出した方がいいよ。」と励ます。
F 女：声を掛けてあげて，「どうしたの。」って言います。一緒に困っていることを考えてあげます。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

エ　行動した結果をふり返り修正する力

「生活の中で，行動や活動，仕事をした後に，どうしますか。」には,「片付けをする。」の回答が多かった。児童の反応に合わせ，補助的な質問をしたが，結果を振り返り修正する力に相当する回答は２名であった。質問の内容が妥当ではないことが考えられる。

表９　半構造化面接　項目４

生活の中で，行動や活動，仕事をした後に，どうしますか。
A 女：片付けをしています。それから，友達が言った意見と自分の意見を混ぜて，仕事に活かしています。
D 男：片付けます。振り返りをします。反省をして，だめな所とか良い所とかを振り返って，次の練習にそれを取り入れて練習しています。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

オ　自分たちの生活の向上のために課題を見つけ出す力

「自分たちの生活をよりよくするためには，どうすればよいと思いますか。」には,「クラス会議で提案する。」という回答を３名がした。児童の生活向上にクラス会議は浸透しつつあることが示唆される。

表１０　半構造化面接　項目５

自分たちの生活をよりよくするためには，どうすればよいと思いますか。
C 女：みんなで遊ぶ日をつくればいい。お楽しみ係をつくればいい。信頼関係が深まると思う。クラス会議で提案すればいい。
F 女：自分もそうですが，他のみんなも一緒に考えるとか。クラス会議で提案するとかします。
G 男：そこらへんはみんなで考えていけばいいと思います。学校生活でのダメな所とか見直していけばいいと思います。学級会かな。クラス会議かな。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

カ　クラス会議の良かった点について

「クラス会議をやってみて，よかったと感じた点を話してください。」には，「学級会よりもクラス会議の方が取り組み易いこと。人を傷つけない配慮があること。悩みを協力して解決したことによって実践できるようになったこと。みんなが仲良くなったこと。自己主張できるようになったこと。」の回答が得られた。

表１１　半構造化面接　項目６

項目６　クラス会議をやってみて，よかったと感じた点を話してください。
A 女：学級会は，賛成とか反対とか言うけど，クラス会議は反対ではなく，心配なところと言うので，人を傷つけないように，「〇〇さんの意見はいいですが，ここは心配です。」というように優しく言っているところがいいです。授業にも役立っている感じがします。
C 女：E くんが「遠足の時に一人で遊ぶのは嫌です。」と今まで我慢したことを言えたのかな。
D 男：学級会よりやり易い。学級会って細かすぎて，クラス会議とは違って上級者向けっていうか。だから，クラス会議の方がいい。
F 女：私の悩みにみんながくれた案で早起きに少しなれたような気がします。
G 男：みんなが仲良くなった感じがします。空気が重くなる話だったら，みんなで考えた方がいいと思います。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

キ　クラス会議で辛かったことについて

「クラス会議をやってみて，嫌だった・辛かったと思うところを話してください。」には，ほとんどが「特にありません。」と回答した。「司会の難しさを経験しながらも，優しく注意できるようになったこと。自己主張できる人を認められるようになったこと。」など，自己の成長に気付く回答が得られた。

表１２　半構造化面接　項目７

項目７　クラス会議をやってみて，嫌だった・辛かったと思うところを話してください。
A 女：始めの頃は，自分が司会になった時に，進行表にふざけている時に注意してもいいと書いているんだけど，後で陰口を言われるようで注意できなかった。今は優しく注意できるようになった。
C 女：大群でも意見を曲げない人は強いと思う。前はいじめられていたけど。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

ク　クラス会議の有用性について

「クラス会議は，あなたのためになりましたか。」には，「みんなのためになった。」と回答した児童が２名いた。クラスにあった壁が薄くなり，人間関係の変化の兆しを示唆するような回答もあった。

表１３　半構造化面接　項目８

項目８　クラス会議は，あなたのためになりましたか。
F 女：自分のためにもなったし，みんなのためにもなったと思います。
G 男：みんなのためになったと思います。人間関係が少し変わった気がします。前に言ったじゃないですか。ぼくたちには壁があるって。それが薄くなった気がする。前は E くんと D くんが話をしなかったけど，今は結構話してるから。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

ケ　クラス会議で身に付いた力について

「クラス会議で，どんな力がついたと思いますか。」には，「自分の意見を言えるようになったこと。人のいい所を考えること。意見を聞き，話し合う力。」などが挙げられた。

表１４　半構造化面接　項目９

項目９　クラス会議で，どんな力がついたと思いますか。
C 女：１人で６人に立ち向かうのは無理なんですけど，２人とか３人とかだったら，自分の意見を言えるようになってきた。
D 男：人のいいところとか考えたり，短時間で自分の考えを出したり。
F 女：他の人の意見をきちんと聞く力と，他の人の意見について話し合う力です。

注　アンダーライン部分はクラス会議の効果と考えられる回答。

(3) 考察

学校環境適応感尺度「アセス」の「友人サポート」と「向社会的スキル」の二つの因子で，事前と事後の平均得点が上昇した児童は３名であった。半構造化面接の項目１と項目３については，事前と事後の平均得点が上昇した３名の児童が，クラス会議の効果と考えられる回答をしている。また，「友人サポート」の因子で事前と事後の平均得点が上昇した１名の児童も，両項目でクラス会議の効果と考えられる回答をしている。学級全体で見ると，項目１では７名中４名の児童が，項目３では７名中６名の児童が，クラス会議の効果と考えられる回答をしているのである。このことから，クラス会議を通して，互いの違いを乗り越え，折り合いをつけて意思決定する力と問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力が高まりつつあると考えられる。クラス会議で解決策を話し合う時，相談タイムを取り入れる，トーキングスティックを回して全員に発言する機会を保障する，解決策の心配な点を明らかにするといった活動を十分に行ったことが，効果として現れたと推察される。また，クラス会議の中では，コンプリメントの交換があるので，児童は日常生活においても学級のみんなを気に掛けるようになってきており，友達の良さや頑張りに注目したり，更には自分自身の言動にも配慮したりするようになった。このように，学級のみんなとより良くつながろうと意識しだしたことも先述した二つの力の高まりに関係していると考えられる。

項目５では，「クラス会議」と回答する児童が３名いた。自分たちの生活をより良くするための方法の一つとして，クラス会議が児童の身近なものになっていることが示唆される。日常生活の中で，議題ポストに議題を投函する姿が見られ，クラス会議実施前より，学級生活を向上させるために課題を見付けだすようになってきた。議題箱のそばに議題例を掲示したり，議題を探す練習としてブレインストーミングを用いたりする活動を行ったため，自分たちの生活の向上のために課題を見付け出す力が高まってきたと考えられる。

その一方，項目２と項目４では，クラス会議の効果と考えられる回答が少なく，協力して問題解決をする力と，行動した結果を振り返り修正する力については，効果を確認することができなかった。しかし，児童は議題に沿って，協力しながら問題を解決しようと努力していた。クラス会議での振り返りで，協力して問題解決していることを称賛する機会が足りなかったために，児童の実感に結び付かなかったようである。また，７回のクラス会議では，結果を振り返る場面はあったものの，修正をする機会がほとんどなかったため，行動した結果を振り返り修正する力の向上に至らなかったと考えられる。

クラス会議は，自治的能力を育てる以外にも，利点がたくさんあることが分かった。児童にとっては学級会よりもクラス会議の方が取り組み易いこと，人を傷つけない配慮があること，悩みを協力して解決したことによって実践できるようになったこと，みんなが仲良くなったこと，自己主張できるようになったこと，人間関係の変化に兆しが見られること，自分の意見を言えるようになったこと，人の良い所を考えること，意見を聞き，話し合う力がつくことなどが挙げられる。継続的なクラス会議の実践を通して，児童は，自己の成長と他者理解を経験し，固定化した人間関係が変容してきたようである。

以上のことから，少人数学級においてもクラス会議は，児童の自治的能力を高める上で一定の効果があると推察することができ、さらに付随した利点もあると考えられる。

Ⅴ　研究のまとめ

本研究は，人間関係が固定化している少人数学級の小学校高学年児童に対して，クラス会議の手法を取り入れた話合い活動を実践することにより，自治的能力の高まりが見られるかどうかを検証した。

その結果，自治的能力と捉える五つの力のうち，互いの違いを乗り越え，折り合いをつけて意思決定する力と，問題を抱える個人のために自分のできることを考え支援する力が高まりつつあるということが，明らかになった。また，議題ポストを設置し，継続的にクラス会議を実施することで，自分たちの生活の向上のために課題を見付け出す力も高まりつつあることが明らかになった。さらに，クラス会議の実践は，児童にとって，自己の成長や他者理解を経験する場となり，固定化した人間関係を変容させることが示唆された。

Ⅵ　本研究における課題

・協力して問題解決をする力を高めるために，クラス会議の最後の場面において振り返りの仕方を工夫する必要がある。
・行動した結果を振り返り，修正する力を高めるために，実践中及び実践後の振り返りの場面における教師の働きかけなどを工夫する必要がある。

＜引用文献・URL ＞

1　文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター　2015　『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編)』，p.5，文溪堂
2　河村茂雄　2010　『日本の学級集団と学級経営　集団の教育力を生かす学校システムの原理と展望』，pp.77-78，図書文化
3　堀内拓志　2014　「共同体感覚を育む「クラス会議」の活用に関する研究」『研究調査報告　第393』http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/nc3/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=2135（2015.5.28）
4　津田典和　2015　「自治的な学級集団を育成する開発的生徒指導の在り方ー「クラス会議」の手法と生徒指導の三機能を生かした話合い活動の工夫ー」　『広島県立教育センター研究報告』http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h26_zennki/zen21.pdf（2015.5.28）
5　赤坂真二　2014a　『いま「クラス会議」がすごい！』，pp.14-17，学陽書房
6　赤坂真二　2014b　『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル』，p.21，ほんの森出版
7　飯尾友謙　2013　「児童会活動を中心とした自治的能力の向上～自己成長を実感できる集団づくり～」『岐阜大学教育学部　教師教育研究9』http://www.ed.gifu-u.ac.jp/info/kyosi/pdf/9_13.pdf（2015.6.15）
8　栗原慎二・井上弥　2010　『アセスの使い方・活かし方』，p.10，ほんの森出版